

第6回「ゆめづくりまちづくり賞」受賞作品の概要

<優秀賞> 3団体

◆京都・鴨川の源流の地 雲ヶ畑における「もくもく号」を活用した地域づくり (雲ヶ畑地域グリーンツーリズム推進協議会) 【京都府京都市】

鴨川の源流に位置する雲ヶ畑では過疎化が進んでいる影響から、地域と市の中心部を結ぶ唯一の交通機関である路線バスが撤退した。そこで、雲ヶ畑自治振興会が運行主体となり雲ヶ畑バス「もくもく号」の運行に取り組み、地域の足を復活させた。

雲ヶ畑自治振興会は、「もくもく号」の実現に至る議論の中で、観光を通じて雲ヶ畑の歴史や文化、自然に触れ、来訪者と住民が一体となって雲ヶ畑の魅力を再発見できる企画はないかとの話になった。その結果、「もくもく号」を活用し、雲ヶ畑の地域資源を活かした”雲ヶ畑ならではの”にとことんこだわることに重きを置いた「日帰りツアー」の実現を果たしている。

現在では地元だけではなく、外部のボランティア団体や大学生サークルも加わり、ユニークな発想で地元の特産品を活かした商品を開発している動きもみられる。



路線バスがなくなっても、
地域の方々の足をなくしません！

日帰りツアーで「ゆずジャム」
づくり体験を行いましたよ～。

地元考案「大山椒魚まんじゅう」。
お気に入りの大山椒魚
を見つけてください♪

◆「双葉町応援隊-KIZUNA-」被災地と心を一つに

(京丹波町スポーツ少年団)
【京都府京丹波町】

東日本大震災により、今もなお多くの方が仮設住宅等の生活を余儀なくされている。京丹波町では、古くから友好町として良好な関係にある双葉町が、津波だけでなく放射能汚染による見通しのたたない避難生活を強いられているため、町をあげた支援に取り組んでいる。

京丹波町スポーツ少年団は、震災を契機に地元の様々な活動団体の協力のもと、単なる被災者への物資提供の「支援」ではなく、地域特産のジャガイモ等の野菜を育て自ら被災者の元へ持参し、交流を深めることで「応援」する愛のこもった活動を継続している。大切に育てたジャガイモを被災者へメッセージを添えて手渡すことで、活動は青少年育成にも寄与している。また、子どもが主体的に活動することで地域を巻き込んだ取組みに発展しており、この活動に誘発され地元高校でもボランティア活動が始まる他、双葉町の学校給食へ京丹波町で育てられたジャガイモが取り入れられる等、地域への波及効果が確認できる。



たくさん収穫できたジャガイモ。
これから袋詰め作業の開始だ！

さーこれから、一軒一軒
心を入れてお届けするから
待っててね。

みんなで一生懸命作りました。

◆シングルマザーと子どものための居場所づくり-WACCA(わか) (NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネットこうべ) 【兵庫県神戸市】

長年、女性と子どもの人権を守る活動をしてきたウィメンズネット・こうべが、地域で孤立しがちなシングルマザーと子どもたちの居場所としてWACCAを開設した。コンセプトを「街の中の小さなうち」とし、寂しさや不安を抱える女性や子どもたちが、あたたかな家庭にいるようなほっこりした気持ちになれる場所となるよう活動を行っている。シングルマザーが新たな地域で生活を再スタートする場合、さまざまな困難を抱え、コミュニティからも孤立しがちであるが、WACCAでは社会福祉士が常駐し心強く支援している。活動内容はシングルマザーへの就労準備支援や子どもの学習支援、仲間づくり、地域の支援の輪を広げる活動等を展開している。当該施設は様々な活動団体にも利用され、地域づくり活動の輪も広がる波及性も備わっている。



絵本がいっぱい！安心する居場所だね。



就労準備支援として、チャリティショップの商品の検品やアイロンがけ中。仲間と一緒に作業は楽しいな。



月に1回日曜日には造形教室を開催。日頃忙しいお母さんと一緒に作品を作るの楽しいな

＜奨励賞＞ 2団体

◆大阪府交野市 星田山手 ボランティア街づくり -郊外住宅地の再生をめざして-

(星田山手ボランティア・街づくり推進会)
【大阪府交野市】

星田山手地区は昭和40年代に分譲された郊外型の住宅街であるが、現在では高齢化による衰退が著しいため、「星田山手ボランティア・街づくり推進会」がほっこりとした地域の居場所づくりに取り組んでいる。活動は、毎日の小学生登下校時の見守り隊から、一人住まいへの声かけ訪問や新米ママへの育児支援なども日常的な活動に広がり、世代を超えたコミュニケーションの促進が図られている。活動の牽引役は高齢者であるが、雑木林の繁茂著しい遊休地を自ら切り開き、皆が集まれる活動拠点として広大な広場の整備や、桜並木の遊歩道整備をオーナー制度を採用して進めるなど、活力あふれる活動が特徴。ひとり住まいの高齢者が長期入院する場合など、一時的に空き家となった民家をボランティアで掃除するなど、地域内における信頼関係の醸成にも寄与している。地味な活動だけでなく「街を明るく！」と始めた山ナリエ(年末のイルミネーション)は、1万5千人もの見物客が押し寄せるなど、元気な地域づくり活動を実践している。



高齢者だけどみんな楽しく力を合わせて星田山手を盛り上げていくぞ！

星田山手最大のイベント。出店や催しものも手づくり。

毎年装いを変える、これが噂の「山ナリエ★」。

◆学校と地域(自主防災組織等)による防災・減災への取り組み (率先避難として)

(和歌山県那智勝浦町立宇久井中学校)

【和歌山県那智勝浦町】

那智勝浦町は、平成23年の台風12号において山からの土石流による甚大な被害を受けており、今後も南海トラフ巨大地震による海からの津波に予断無く警戒が必要である。しかし、行政には防災対策に十分な予算や人員もなく、住民が積極的に自助・共助として備えることが肝要。宇久井中学校は、安全な高台に位置していることから、例えば有事の際には生徒が即戦力となって避難所の設営作業で活躍できるよう、実践的な防災教育に力を入れている。これらの取り組みが発展し、校区共育コミュニティー会議が設置され、平時から地域と密接な関係を築いている。活動を通じて生徒自身に「自分も地域の一員だ」という自覚が目覚め、日々の挨拶にもその姿勢が表れている。校内での抜打ち防災訓練や、各種防災ワークショップ等、痛ましい被災に屈せず地域と一体になって取り組む中学生の力強さは、今後の災害大国における防災・減災のあり方を示している。



倒壊も踏まえ入念な避難路の確認。



生徒だからこそ活躍できる体育館での避難所設営訓練。



地域の方々と一体になってまちの防災・減災に熱心に取り組む。